



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月8日 福

上場会社名 株式会社Misumi 上場取引所  
 コード番号 7441 URL <http://kk-misumi.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡 恒憲  
 問合せ先責任者 (役職名) サポート本部長兼経理部長 (氏名) 今田 和孝 (TEL) 099-260-2213  
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日~平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	39,533	△15.7	725	31.6	919	27.3	417	△6.3
27年3月期第3四半期	46,888	△4.1	551	19.2	722	1.5	445	△8.8

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 545百万円(△35.1%) 27年3月期第3四半期 839百万円(25.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	68.76	—
27年3月期第3四半期	73.33	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	35,610	15,512	43.0
27年3月期	35,153	15,177	42.6

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 15,312百万円 27年3月期 14,978百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
28年3月期	—	16.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	16.00	32.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日~平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	55,627	△9.0	1,289	21.0	1,484	5.5	679	△5.3	111.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 - 社(社名) 、除外 - 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期3Q	6,100,503株	27年3月期	6,100,503株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	41,369株	27年3月期	30,669株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期3Q	6,065,167株	27年3月期3Q	6,069,834株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

第3四半期連結累計期間における我が国経済は、政府による経済政策等を背景に、企業収益や雇用情勢に改善の動きが見られ、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、中国をはじめとする新興国等の景気の下振れが懸念されるなど、先行きは不透明な状況にありました。

当社グループの営業基盤である南九州においては、昨年の消費税率引き上げや円安に伴う物価上昇等により、消費者の節約志向、低価格志向が根強く残る中で、業種・業態を超えた競争は一層激しさを増しており、依然として厳しい経営環境にありました。

このような状況の中で当社グループは、主力のエネルギー事業において、燃料油やL Pガス等の販売における地域シェアの拡大に努めるとともに、全ての事業において、営業力の強化及びサービスの向上を図るための人材育成に加え、お客様ニーズを捉えた改装や売場の変更を積極的に実施するなど、収益力の強化に努めました。

以上の結果、エネルギー関連商品の販売価格が低下したこと等により当第3四半期連結累計期間の売上高は395億33百万円（前年同四半期比15.7%減）となりましたが、エネルギー関連商品の調達価格の下落等もあり、経常利益は9億19百万円（前年同四半期比27.3%増）となりました。しかしながら九州石油業厚生年金基金の解散に伴う損失見込額を、厚生年金基金解散損失引当金繰入額（特別損失）として2億67百万円計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億17百万円（前年同四半期比6.3%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 1 エネルギー

「エネルギー」セグメントにつきましては、石油部門において、原油の価格変動に左右されない油外商品の拡販に努めるとともに、ENEOSカード等の新規会員獲得によるユーザーの囲い込みに加え、安値競争への対応や販促活動等による燃料油の増販に努めました。また、4月に他社より宮崎市内にあるSS1店舗の事業を譲受け、セルフ福島SSとしてオープンいたしました。

ガス部門においては、L Pガス海上基地の稼働率アップや配送コストの削減に努めるとともに、ミスミフェア（合同展示会）の開催等による新規顧客の開拓に加え、訪問活動によるガス関連機器の提案やお客様との関係強化に取り組みました。また、販売網の拡大を目的として、鹿児島県肝属郡南大隅地区におけるL Pガス需要家へのガス販売権を一部買取り、4月に「ミスミガス佐多店」を新設し、営業を開始いたしました。

その他、前連結会計年度から鹿児島県肝属郡南大隅町に建設を進めておりました「佐多辺塚小水力発電所」が完成し、11月より売電を開始いたしました。

以上の結果、売上高は原油価格やL Pガス輸入価格の下落に伴い、エネルギー関連商品の販売価格が低下したこと等により300億22百万円（前年同四半期比19.3%減）となりましたが、エネルギー関連商品の調達価格の下落等もあり、セグメント利益（営業利益）は5億59百万円（前年同四半期比30.3%増）となりました。

#### 2 ライフスタイル

「ライフスタイル」セグメントにつきましては、カルチャー部門において、映像レンタルの売上改善を図るため、Tカードやアプリ会員の獲得強化に努めるとともに、レンタルのセルフレジを新たに2店舗へ導入し、店舗運営の効率化を図りました。また、6月にはブックスミスミオプシア店の雑貨コーナーを「J i b u n - S t y l e」としてリニューアルし、他社との差別化を図りました。

自動車部門においては、展示会の実施や販促活動等による集客を図り、新車販売の増販に努めるとともに、タイヤ販売における新規取引先の開拓と売れ筋商品の販売に注力し、収益確保に努めました。また、収益の拡大を目的として、車検のコバック熊本小峯店を12月に熊本市内の幹線道路沿いに移転し、「車検のコバック熊本インター店」としてリニューアルオープンいたしました。

ホームライフ部門においては、家庭用太陽光発電システムの販売強化に加え、スマートハウスの構造見学会や完成見学会を定期的実施し集客を図るなど、新規受注獲得に努めました。

以上の結果、売上高は需要縮小や競合他社との競争等の影響を受けて53億76百万円（前年同四半期比5.4%減）となりましたが、セグメント利益（営業利益）は2億9百万円（前年同四半期比5.9%増）となりました。

### 3 フード&ビバレッジ

「フード&ビバレッジ」セグメントにつきましては、外食部門において、店舗イメージの向上等を目的として、6月にKFC2店舗を改装するとともに、新商品の販売やキャンペーンの連続投入による収益改善を図りました。また、全業態において、食材・衛生管理の徹底と、店舗オペレーションの強化を図り、心のこもったサービスを実践することで、お客様満足度の向上に努めました。

ミネラルウォーター部門においては、営業活動の見直しによる、営業効率の向上に努めるとともに、ショッピングサイト内の店舗リニューアルや新規オンラインモールでの販売を本格稼働させるなど、ネット販売における宅配件数のシェア拡大を図りました。

以上の結果、売上高は41億34百万円（前年同四半期比3.5%増）、セグメント利益（営業利益）は3億67百万円（前年同四半期比7.9%増）となりました。

（上記金額には、消費税等は含まれておりません。）

## （2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて4億56百万円増加し、356億10百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金や商品及び製品が減少した一方、現金及び預金の増加並びに土地の取得等により有形固定資産が増加したこと等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて1億21百万円増加し、200億97百万円となりました。これは主に、未払法人税等が減少した一方、九州石油業厚生年金基金の解散に伴う損失見込額を、厚生年金基金解散損失引当金として負債に計上したことにより増加したこと等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて3億35百万円増加し、155億12百万円となりました。これは主に、利益剰余金やその他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期の業績予想につきましては、平成27年11月9日発表から変更ありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

記載すべき事項はありません。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項（4）、連結会計基準第44-5項（4）及び事業分離等会計基準第57-4項（4）に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,240,959	5,555,666
受取手形及び売掛金	4,610,840	4,433,226
商品及び製品	2,733,724	2,605,721
仕掛品	47,441	58,739
原材料及び貯蔵品	43,195	44,325
その他	678,468	532,371
貸倒引当金	△82,863	△82,360
流動資産合計	13,271,766	13,147,690
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,730,498	3,711,303
土地	12,227,632	12,464,443
その他(純額)	980,945	1,083,177
有形固定資産合計	16,939,076	17,258,924
無形固定資産		
投資その他の資産	234,892	173,674
その他	4,979,203	5,303,821
貸倒引当金	△271,221	△273,448
投資その他の資産合計	4,707,982	5,030,372
固定資産合計	21,881,950	22,462,972
資産合計	35,153,717	35,610,662
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,912,193	2,006,053
短期借入金	5,810,000	5,267,500
1年内返済予定の長期借入金	2,164,260	2,621,932
未払法人税等	362,737	126,252
賞与引当金	306,525	187,416
その他	1,613,118	1,789,878
流動負債合計	12,168,834	11,999,033
固定負債		
長期借入金	5,744,175	5,748,646
役員退職慰労引当金	770,500	777,100
厚生年金基金解散損失引当金	—	267,514
その他	1,292,354	1,305,461
固定負債合計	7,807,029	8,098,721
負債合計	19,975,863	20,097,754

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,690,899	1,690,899
資本剰余金	1,646,341	1,646,341
利益剰余金	10,851,148	11,080,143
自己株式	△43,403	△62,244
株主資本合計	14,144,986	14,355,139
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	906,435	1,026,143
退職給付に係る調整累計額	△72,596	△68,667
その他の包括利益累計額合計	833,839	957,476
非支配株主持分	199,028	200,291
純資産合計	15,177,853	15,512,907
負債純資産合計	35,153,717	35,610,662

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	46,888,369	39,533,874
売上原価	38,440,239	30,890,042
売上総利益	8,448,130	8,643,831
販売費及び一般管理費	7,896,912	7,918,470
営業利益	551,217	725,360
営業外収益		
受取利息	3,356	3,156
受取配当金	31,988	45,627
受取賃貸料	108,447	104,093
その他	189,131	205,457
営業外収益合計	332,923	358,335
営業外費用		
支払利息	95,760	84,877
賃貸費用	47,208	42,999
その他	18,390	35,823
営業外費用合計	161,360	163,700
経常利益	722,780	919,995
特別利益		
固定資産売却益	11,963	4,273
投資有価証券売却益	—	2,017
収用補償金	—	10,517
特別利益合計	11,963	16,808
特別損失		
減損損失	—	960
厚生年金基金解散損失引当金繰入額	—	267,514
特別損失合計	—	268,474
税金等調整前四半期純利益	734,744	668,329
法人税、住民税及び事業税	184,967	255,349
法人税等調整額	102,033	△7,506
法人税等合計	287,000	247,842
四半期純利益	447,744	420,487
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,670	3,436
親会社株主に帰属する四半期純利益	445,073	417,051



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	447,744	420,487
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	400,749	119,707
退職給付に係る調整額	△9,064	5,001
その他の包括利益合計	391,685	124,709
四半期包括利益	839,429	545,196
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	835,113	540,688
非支配株主に係る四半期包括利益	4,315	4,508

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	エネルギー	ライフ スタイル	フード& ビバレッジ	計		
売上高						
外部顧客への売上高	37,209,177	5,684,193	3,994,998	46,888,369	—	46,888,369
セグメント間の内部 売上高又は振替高	25,199	50,755	20,645	96,601	△96,601	—
計	37,234,377	5,734,948	4,015,644	46,984,970	△96,601	46,888,369
セグメント利益	429,578	197,304	340,205	967,088	△415,871	551,217

(注) 1. セグメント利益の調整額△415,871千円には、セグメント間取引消去7,171千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△423,042千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	エネルギー	ライフ スタイル	フード& ビバレッジ	計		
売上高						
外部顧客への売上高	30,022,888	5,376,342	4,134,643	39,533,874	—	39,533,874
セグメント間の内部 売上高又は振替高	20,721	69,926	18,669	109,317	△109,317	—
計	30,043,609	5,446,268	4,153,312	39,643,191	△109,317	39,533,874
セグメント利益	559,643	209,014	367,087	1,135,746	△410,385	725,360

(注) 1. セグメント利益の調整額△410,385千円には、セグメント間取引消去5,898千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△416,283千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。